

| | |
|------|----------------------------|
| 氏名 | 川瀬 貴之 |
| 職名 | 法科大学院兼任講師 |
| 最終学歴 | 京都大学大学院法学研究科法政理論専攻博士後期課程修了 |
| 取得学位 | 博士（法学）[京都大学] |

[略 歴]

| 年 月 | 事 項 |
|-------------|-------------------|
| 平成 23 年 4 月 | 千葉大学法経学部助教 |
| 平成 24 年 8 月 | 千葉大学医学部附属病院講師 |
| 平成 26 年 4 月 | 千葉大学法政経学部准教授 |
| 平成 19 年 4 月 | 千葉大学大学院社会科学研究院准教授 |

[社会における活動等]

| 年 月 | 事 項 |
|-------------|------------------------|
| 平成 28 年 9 月 | 千葉県個人情報保護審議会委員 |
| 平成 31 年 4 月 | 千葉県救急医療センター倫理審査委員会外部委員 |

[主な研究業績等]

| 著書、学術論文等の名称 | 発行または 発表の年月 | 備 考 |
|---|----------------------------|-----------------------------|
| 著書 | | |
| 1. 『はじめて学ぶ法哲学・法思想 古典で読み解く 21 のトピック』(共著) ミネルヴァ書房、第Ⅲ部第 6 章「多文化主義—多様な文化を尊重するとはどういうことか?」 | 平成 22 年 4 月 | P 289-301 |
| 2. 『コミュニタリアニズムのフロンティア』(共著) 勁草書房、第一部第 1 章「リベラル・ナショナリズム」 | 平成 24 年 11 月 | P 10-29 |
| 論文 | | |
| 1. リベラリズムとナショナリズム—道具的ナショナリズムのリベラルな正当化—、法学論叢、(一) 第 161 卷 6 号 131-143 頁、(二・完) 第 163 卷 3 号 | 平成 19 年 9 月 平成 20 年 6 月 | P 138-155 |
| 2. 文化批判の作法—ジョセフ・カレンズの議論をてがかりに—、法哲学年報 2008 | 平成 21 年 | P 173-180 |
| 3. デイヴィッド・ミラーの分配的正義とナショナリティ」、法学論叢、(一) 第 166 卷 4 号、(二・完) 167 卷 3 号 | 平成 22 年 1 月 6 月 | (一) P 76-108 (二) P 80-97 |
| 4. 「ナショナリズムの一般原理の難しさ—国民国家の領域的主張の場合—」財団法人国際高等研究所『スンマとシステム』 | 平成 23 年 | P 239-356 |
| 5. 「国民国家の集団的責任と過去の不正義の補償」千葉大学法学論集、第 26 卷 3 号 | 平成 23 年 12 月 | P 1-60 |

| | | |
|--|--------------|-----------|
| 6. 「国際的な分配的正義に関する一試論」千葉大学法学論集、第 27 巻 1 号 | 平成 24 年 6 月 | P 31-98 |
| 7. 「臨床研究における診療と研究の価値対立の本質」千葉大学法学論集、29 巻 1・2 号 | 平成 26 年 8 月 | P446-410 |
| 8. 「臨床研究における被験者の自律尊重原理」千葉大学法学論集、31 巻 1 号 | 平成 28 年 7 月 | P130-71 |
| 9. 「臨床研究におけるリスク・ベネフィット評価」千葉大学法学論集、33 巻 1 号 | 平成 30 年 6 月 | P163-202 |
| 翻訳 | | |
| 1. マイケル・オークショット著『増補版政治における合理主義』勁草書房「政治的言説」 | 平成 25 年 9 月 | P 471-498 |
| 2. シーラ・ジャサノフ著『法廷に立つ科学』勁草書房「第 5 章科学のコミュニティにおける法」 | 平成 27 年 7 月 | P 99-119 |
| 3. クリストフ・リュトゲ講演会、川瀬貴之・中井良太訳「自動運転車のための倫理：ドイツの事例から」千葉大学法学論集、第 32 巻 3・4 号 | 平成 30 年 | P 28-8 |
| 4. ジョエル・ファインバーグ著『倫理学と法学の架橋』東信堂「道徳的権利の擁護：その社会的重要性」 | 平成 30 年 11 月 | P 269-303 |